エト3Y-1

小戰例評論及問題

第一編

K氏編

東京 兵事雜誌社

051843-001-2

29-281

小戦例評論及問題

NK／編

M34

BFB-0715

29-281

明治文庫

本書ノ驅者ニ近ヅクル所ハ主トシテ歩兵隊ノ小隊長ニ要スベキ故參下士諸君トス、而シテ特ニ世間ノ戰例ニ通ズ讀者ノ間、所々ニ挿入セル問題ハ專ラ其答解ヲ示サザルタル後、爾後ノ經過ニ移ルヲ要

答解ハ特ニ之ヲ示サズ唯參考ニ資スル爲メ二三ノ單簡ナル評論ヲ記述セリ此評論ト戰例ノ經過トハ以テ諸君ノ答解ノ當否ヲ判定スルニ足ラム若シ尙ホ解セザル所アラバ諸君ノ教官タリ指揮官タル名譽ナル隊

長諸君ニ問ヘ
略圖ハ之ヲ挿入セズ是レ本書ノ研究ニ於テ甚シキ必要ヲ認メザレバナリ故ニ諸君ハ戰例ヲ熟讀シテ地形地物ヲ想像スルヲ要ス。

本書ハ唯歩兵ノ小隊中隊ニ關シテ說述セリ若シ本書ニシテ幸ニ諸君ノ歡迎ヲ受ケナバ騎兵、砲兵及稍大ナル編合部隊ニ就イテ續々編述スル所アラントス故ニ本書ヲ以テ第一編トナセリ

本書ノ引用書目ハ左記ノ甚ダ有益ナル獨逸ノ新刊書ナリ。

Kunz, Kriegsgeschichtliche Beispiele ans dem Kriege v. 1870/71.
Grapow, Kampf und Gefecht.

故ニ本書ノ戰例ハ皆西暦千八百七十及七十一年獨佛戰ニ於ケル獨逸軍ニ關スル者ナリ。

明治三十四年八月　編者

小戰例評論及問題

N K 編

第一例　小哨ノ善良ナル防禦

于八百七十年九月廿五日中尉ケンプテーハ巴里前面ノ Pierrefitte（ピーエレフィッテー）ニ於テ歩兵第二十七聯隊第九中隊ニ屬ス

ル小哨司令タリ時ニ突然佛軍ノ長キ一散兵線ノ急襲ヲ受ク中尉ケンプテーハ靜カニ佛軍ヲシテ約四十米ノ距離迄近接セシメ然ル後始メテ急射擊ヲ號令セリ

佛軍ハ亂雜ニ急ギ退却セルモ九名ノ死者重傷者ヲ遺

棄シ去レリ普軍ニ於テハ唯一歩兵ヲ傷ケタルノミ。

問題

一中尉ケンプテーノ處置ハ小哨長タル者ノ常ニ之ヲ見做フベキモノナルヤ若シ然ラズトセバ如何ナル場合ニ於テ此ノ如キ處置ニ出ツベキヤ。

二敵ノ遺棄セル重傷者ニ施スベキ處置如何。

第一例

第二例

第二例　搜索隊ノ勇敢ナル指揮

千八百七十年十一月十八日中尉コップハ歩兵第百九聯隊ノ第五中隊ノ下士二名兵卒三十名及龍騎兵六騎ヲ率ヰ Chamboeuf（シャムボーフ）ニ前進シ敵ノ兵力及目的ヲ偵察スベキ命令ヲ受ケ尚ホ其過グル所ノ村落ニ於テ成ルベク多數ノ糧食ヲ徵發スベキ任務ヲ有セリ最初ノ二個ノ村落ニ於テハ毫モ擾亂ヲ受クルコナク好結果ヲ以テ實行スルヲ得タリ然レ𪜈 Chamboeuf（シャマボーフ）附近ニ於テ遠ク前遣セル騎兵尖兵敵ニ衝突ス。

問題

三中尉コップハ如何ニ決心シ如何ニ處置スベキヤ。

中尉コップハ之ヲ後方ニ報告シ鹵獲糧食ヲ積載セル車二輛ヲ退却セシム、今ヤ彼ハ適時退却スベキヤ或ハ更ニ尚ホ敵ノ兵力ヲ攻撃ニ依テ偵察スベキヤヲ決心スルヲ要セリ。

敵ノ優勢ナル「已」ニ明瞭ナルニ屆セズ且地形ノ我ニ不利ナル「大」ナルニ拘ハラズ中尉コップハ敵ニ向ヒ前進スベキ大膽ナル決心ヲ擇ベリ。

問題

四此種ノ決心ハ常ニ如何ナル結果ニ陷ルベキヤ。

佛軍ハ暫時ニシテ彼ヲ兩翼ヨリ包圍シ此勇敢ハ大膽ナル將校ニ惡シキ結果ヲ與ヘタリ今ヤ彼ハ成シ得ル限リ急速ニ Curlay（クールレー）ニ退却スベキ決心ヲ執レリ。

然レ𪜈佛軍ノ迂回隊ハ此時既ニ Curlay（クールレー）ニ向テ運動ヲ起セリ中尉コップハ大ナル疲勞ヲ以テ僅カニ佛軍ニ先チ該村ニ達スルヲ得タリ此ニ於テ此血氣ノ將校ハ敵ニ正面シ火戰ヲ始メ佛軍ヲシテ急遽ニ退却セシメ以テ我軍ノ前進ニ支障ナカラシムルヲ得タリ。

第二例

問題

五當時處々ニ佛軍民兵ノ徘徊ヲ見タルヲ以テ中尉コッブノ第一ノ決心ノ理由ニシテ若シ騎兵ノ發見セル敵ノ正規兵ナルヤ或ハ怯懦ナル民兵ナルヤヲ確カムルニ在ルカ又ハ民兵ナリト確信セルニ在リトスレバ其決心ハ正當ナリヤ否ヤ。

六コッブ中尉ノ上官ニ致スベキ報告ヲ作爲セヨ。

七中尉コッブガ退却ニ決心スベキ最良ナル時機如何。

第三例

第三例　運動ノ輕捷

大暴風ノアリシ千八百七十年廿六日歩兵第百九聯隊第九中隊ハ Montoche（モントッヘー）ヨリ其西方（敵方）ニ存在セル Apre（アプル）-mont（モント）森林偵察ノ爲メ派遣セラレタリ中隊ハ此大森林内 Essertenue（エッセルテンヌ）ニ至ル道路ノ支分點ニ於テ强力ナル佛軍ノ一小哨ニ遭遇シ直ニ之ヲ攻撃ス半小隊ハ佛軍ノ正面ニ對シ他ノ半小隊ハ其左翼ニ對シ散開セリ。

問題

八敵ヲ攻撃スルニハ優勢ナル火線ヲ編成セザルベカラズ然ルニ中隊長ハ僅カニ敵ノ對抗シ得ベキ一小隊

ノミヲ散開セリ今此中隊長ノ處置當ヲ得タル者トシ地形上ヨリ其處置ノ理由ヲ發見スベシ。

第三例

此時激烈ナル銃聲ヲ聞キ Essertenue(エッセルテンヌ)ヨリ敵ノ增加兵前進シ來ル此敵ト目下火戰中ナル敵ノ小哨トノ約中間ニアル林空ニハ敵ノ鹿柴アリテ其兩側ニハ更ニ塹壕ヲ堀開シ甚ダ善良ナル防禦陣地ヲ構成シ且此陣地ハ能ク道路ヲ縱射スルヲ得而シテ今後方ヨリ前進シ來レル敵ハ明ラカニ此防禦陣地ニ向テ急行スルモノヽ如シ。

第三例

問題

九此狀況ヲ目擊シタル中隊長ハ如何ナル決心ヲ執リ如何ニ處置スベキヤ。

中隊長ハ長ク躊躇セザリキ彼ハ其散開セル小隊ヲシテ敵ノ小哨ニ當ラシメ自ラ中隊ノ殘餘ヲ率ヰ大ナル迅速ヲ以テ銃槍攻擊ヲナシ敵ヨリ早ク彼ノ鹿柴ニ到達セリ敵、勇ヲ失ヒ遁走ス。

問題

一〇中隊長ノ處置ハ適當ナルヤ。

第三例

一一佛軍小哨ハ此ノ如ク長ク敵ノ前進ヲ良好ナル陣地前ニ於テ防支スルノ必要アリヤ又ハ早ク退却シテ其陣地ニ於テ之ヲ防支スルヲ以テ可トスルカ果シテ然ラバ其陣地ニ就クノ時機及方法如何。

一二中隊長ヲシテ好結果ヲ得セシメタル最大要素ハ何ナリヤ敵ノ不適當ナル動作カ將タ我運動ノ迅速カ。

一三全般ノ經過ニ就キ想像ヲ回ラシ以テ前進哨、利害ノ研究ニ及ベヨ。

第四例

第四例　歩兵攻擊ノ模範

歩兵第百十三聯隊ハ Strassburg（ストラスブルグ）攻圍隊掩護ノ爲メ上部 Elsass（アルサス）州ニ對シ配備セラレタル監視隊ニ配屬セラル其第六中隊ハ千八百七十年九月二十一日小市街 Mutzig（ムツチヒ）ヲ占領シ Vogesen（ボーゲセン）山ヨリ此方 Rhin（ライン）河谷ニ降下シ來ル街道ヲ監視セリ。

九月二十二日午前四時卅分此街道上 Dinsheim（ディンスハイム）ニ對シ派遣セラレタル歩哨ハ敵ノ散兵ノ爲メ擊退セラル戰鬪準備ヲナセル見習士官フオンリンクノ小隊ハ直ニ敵ニ向ヒ前進セルガ直チニ多數ノ敵ノ散兵ノ爲ニ劇

烈ナル射撃ヲ蒙ムレリ此敵ノ散兵ハBreusch(ブロイシュ)河ノ左岸ニアル丘阜上ニテ岩角及階段狀ノ岩石ヲ以テ成立セル其南斜面ヲ占領セリ。

見習士官フオン、リンクハ一分隊ヲ殘置シ自ラ小隊ノ殘餘ヲ率ヰ著大ノ困難ヲ冒シ丘阜ヲ攀登ス階段狀ノ葡萄山ヲ通シ岩礁ヲ經、峻險ニ高上セル狹小ナル階段路ヲ各兵卒ハ互ニ扶助シツヽ以テ僅ニ攀登スルヲ得タリ敵ノ火力ハ此Baden(バーデン)兵ノ前進ヲ阻支スルヿ能ハザリキ而ノBaden(バーデン)兵モ亦始メハ全ク應射スルヿナカリキ。漸ク平板狀ノ山巔ニ達セル後、先キニ善ク掩蔽シ毫モ

見ルヿ能ハザリシ敵ニ對シBaden(バーデン)兵ハ始テ此ニ好結果ヲ以テ近距離ヨリ其針銃ノ効力ヲ現ハスヿヲ得タリ。

此間Mutzig(ムツチヒ)ニ於ケル中隊ノ他ノ一小隊ハ迅速ニ集合セラレ北方ノ道路ニ依リテ丘阜ヲ攀登ス其山巔ニ到着スルヤ確カニ優勢ナル敵ヨリ活潑ナル射撃ヲ蒙レリ。

問題

一四 此等ノ狀況ニ於テ小隊ノ指揮官ハ如何ナル決心ト如何ナル自信ヲ要スルヤ。

漸次ニ散開セル小隊ノ効力アル射撃ハ其左翼ヲ脅威セラレタル敵ヲシテ直チニ後方陣地ニ退却セシムルニ至レリ而シテ佛軍ハ此第二ノ陣地ヨリ直ニ亦退却シBaden(バーデン)兵ノ劇烈ナル射撃ニ依リテ追撃セラレ丘陵地内ニ遁逃センガ爲メニ峻險ナル丘阜ヲ散亂シテ降下シ去レリ太約四百人强ノ敵ハ二十ノ死者ヲ遺棄シ歩兵第百十三聯隊ノ第六中隊ハ唯三人ノ負傷者ヲ生ゼリ。

問題

一五 戰鬪ノ經過ヲ含味シ志氣ト火力ニ就テ研究自得ゼバ如何ナル結論ヲ生スベキヤ。

此ニ此問題ノ答解ノ爲メ左ニ若干ノ參考ヲ提供センドス。

フオン、シユリヒチング將軍ハ其著書『近時ノ戰略及戰術原則』(Strategische und taktische Grundsaetze der Gegenwart)ニ於テ砲兵ノ有力ナル準備射撃ナク白晝開豁地ニ於テスル歩兵攻撃ハ今日ニ於テハ既ニ實施シ得ベカラザルヿニ屬スト云ヒ其後更ニ千八百九十七年兵事週報百十一及百十二號ニ於テ此種ノ攻撃ハ禁ゼラルベシト結論セリ此結論タル恐ク將軍ノ平素戰鬪動作ニ

第四例

關シ抱持セル詳細ノ觀察ノ斷案ナラム然レトモ人若シ此等ノ要件ヲ顧慮シ唯タ之ヲ希望セバ終ニ步兵獨力ノ攻擊ハ多クノ場合ニ於テ斷念セザルベカラザルニ至ラントス假令我ニ砲兵ヲ有スル場合ト雖モ我砲兵ハ果メ敵ノ砲兵ヲ壓倒シ我步兵ノ爲メニ攻擊點ヲ擾亂スベキ餘力ヲ有スベキヤ等皆豫メ測知スルヿ能ハザルニアラズヤ。

近者レーベル年報(Loebells Jahresberichten)ハ其戰術ノ部ニ於テ此結論ヲ反駁セリ即千八百九十七年ノ部三百十五頁ニ記シテ曰ク步兵ノ攻擊的精神ハ最モ貴重ナ

欠

MISSING

第七例

獵兵第十七大隊兵ハ着劍セザリシヲ以テ唯射擊ヲ行ヘリト云フ佛軍ハ此普軍ノ全一中隊ヨリハ遙カニ優勢ナリキ而シテ朝百人以上ヲ有セシ中隊ハ短時間ニシテ將校三名兵卒四十五人ノ死傷者ヲ生シ殘餘ハ遂ニ退却ノ已ムヲ得ザルニ至レリ。

一問題

二七 中隊長ハ續テ沈着ナル射擊ヲナスベキヲ良シト考フ如何ニヤ。

二八 此種ノ突擊ハ優勢ナル敵ニ對シ果シテ奏効スベキモノナルヤ。

注意

第四戰例ニ於テ攻擊ノ模範トシテ記述セル所ト茲ニ記述セル所ト貴ブベキ其勇猛ナル歩兵ノ攻擊心ニ於テ殆ド軒輊ナク且敵彈ヲ冒シテ前進セルノ外觀ニ於テ亦甚ダ酷似セリ然ルニ前者ハ攻擊ノ模範ナル讃辭ヲ以テ之ヲ賞美シ後者ニ於テハ無謀ノ突擊ナル評語ヲ名譽アル戰死者ニ捧グル所以ノモノハ其結果ノ成否ニ依リテ然ルニアラズシテ其動作ノ理由ニ於テ大ニ異ナル所アレバナリ第四例ニ於ケル Baden(バーデン) 歩兵小隊ノ始メテ射擊セラルヽヤ佛軍ハ高地緣ニ巧ニ掩蔽

セルヲ以テ Baden(バーデン) 兵之ニ應射スルモ毫モ効力ヲ見ルヿ能ハス故ニ此佛軍ヲ攻擊スルノ第一着手トシテ少クモ先ツ火器ノ効力ヲ發揚シ得ル地點迄前進スルヲ必要トセリ而シテ効力ナキ所謂氣休(キヤス)メ的ノ射擊ハ操典ノ禁ズル所ナリ是レ Baden(バーデン) 兵ノ敵彈ヲ冒シテ峻嶮ヲ攀登セル所以ナリ而メ其一(タビ)良好ナル射擊陣地ニ達スルヲ得ルヤ此ニ沈着ニシテ有効ナル射擊ヲ開始シ果メ敵ヲ驅逐スルヲ得タリ然レ𪜈茲ニ記述セル戰例ニ於テハ唯急遽ト血氣ガ興起セル攻擊心ヲ煽動セルアルヲ見ルノミ無謀ノ突擊ナル評語豈偶然ニ湧出セシ

第七例

モノナラムヤ故ニ曰ク卓越ナル攻擊心ハ深遠ナル計畫ト相伴ハザルベカラズト。

第八例

第八例　先頭中隊トシテ村落占領

千八百七十年十二月三日 Bayern（バイエルン） 歩兵第一聯隊ノ第九中隊ハ先頭中隊トシテ Trogny（トログニー） 村ニ前進ス。

問題

二九 中隊ハ敵ニ就テ不安全ナル此村落ヲ如何ニ通過スヘキヤ。

中隊長大尉ホッフマンハ其二小隊ヲシテ村落ノ外部兩側ヲ前進セシメ自ラ中隊ノ殘餘ヲ以テ村落内ニ進入セリ。

此際Trogny（トロヴニー）村ハ微弱ナル佛軍ヨリ占領セラレアルヲ發見ス。

問題

三〇中隊長ノ決心如何。

中隊ハ村落内ノ家屋ヲ戸毎ニ捜索スルガ如キヿヲナサズ速ニ之ヲ通過シ殘留セル佛兵ハ之ヲ後續部隊ノ處置ニ委任セントス之ガ爲メ大尉（ホッフマン）ハ假令ヒ中隊ハ敵ノ射撃ヲ蒙ルトモ唯速ニ村落ヲ通過スベキヿヲ命シ一意村落ノ彼方ノ出口ニ達セントス。

中隊ハ唯微弱ノ射撃ヲ蒙ムルノミ且ツ村落内ノ佛兵ハ降ヲ請ハントスルモノヽ如シト雖ヒ此狀況ニ於テ村落内ニ在ルBayern（バイエルン）兵ヲシテ射撃セザラシメントスルハ最モ困難ニシテ既ニ兵卒ノ一二名ハ號令ナキモ掩蔽ニ依リ射撃ヲ開始セントスルニ至レリ。

問題

三一中隊長ノ決心如何。

三二「始メ正當ナル計畫……後動カスベカラサル斷行」ナル格言ニ就キ此戰況ニ就キ感ズル所ナキカ。

此ニ此問題答解者ノ爲メ一二ノ參考トシテ開陳スル

所アランヿトス。

先ヅ中隊長ノ決心ニ就テ此問題ノ答解ハ一見甚ダ單簡ニシテ即チ村落戰ノ原則ハ速ニ彼方ノ村端ヲ占領スルニ在リ故ニ中隊長ハ多少ノ被害ヲ顧慮セズ續テ前進スト答ヘナバ以テ充分ナルガ如シト雖ヒ戰術一般ノ原則ハ以テ百般ノ情況ニ於ケル決心ヲ確定スルニ足ラズ必ズヤ其情況ニ照ラシテ利害ヲ稽ヘ原則ヲ加減シ以テ正當ナル決心ノ基礎トナサヾルベカラズ。此狀況ニ於テ中隊長ヲシテ續テ前進スベキ決心ヲ執ラシメザルベカラル原因ハ前述ノ原則ノ外尙ホ村落

ノ外部ヲ前進セル小隊トノ關係是レナリ玆ニ答解ノ全文ヲ記スルハ却テ興味ナキヲ以テ之ヲ喚起スベキ事項ヲ摘記セントス。

中隊長若シ其率ヰタル小隊ヲ以テ已ムヲ得ズ村落內ニ於テ火戰ヲ開始セリトセヨ此場合ニ於テ中隊長ハ村落外部ノ小隊ノ此火戰ニ關スルヿナク速ニ村落ノ彼方ノ緣端ニ前進スベキヲ希フヤ否ヤ。

村落ノ兩側ニ相分レテ前進セル各小隊長ハ突然村落內ニ發生セシ火戰ヲ認メナバ友軍殊ニ己ガ中隊長ヲ救出シ或ハ援助セントノ考慮ニ依リ忽チ其火戰ニ參

與セントノ決心ヲ起サヾルカ而シテ此決心タル果シテ中隊長ノ希望ニ適合スベキヤ。

前二項ノ迷誤ノ結果ハ敵ノ背後ヲ速ニ遮斷スベキ前述ノ原則ニ關シ如何ナル結果ヲ生ズベキヤ。

次ニ最後ノ問題ニ就テ事ハ凡テ局外ニ立テ云々スルハ易ク、自ラ局ニ當テ處置スルハ難シ故ニ答解者ハ自ラ身ヲ其狀況ノ裡ニ居ツテ研究スルニアラザレバ血ト肉トノ結果ナル戰史ノ價値ヲ知ルヿ能ハザルナリ此ニ記述スル戰例ハ恐ラク此問題ニ對シ抱持セル答解者ノ所感ヲ滿足セシムルナラント信ズ。

大尉ホッフマンハ刀ヲ揮フテ兵卒ノ掩蔽物ニ據リテ射擊セントセルヲ制止セリ唯通過ノ間、大ナル邸宅ハ速ニ哨兵ヲ以テ警戒セシメタリ敵ハ急遽ヲ以テ村落ヲ退去セリ而シテ殘留セル佛兵ハ後續部隊ノ爲ニ家屋外ニ驅出セラレヌ。

トログニー Trogny ヨリ退却セル敵ハ村緣ヲ去ル僅カニ二百米突ノ地點ニ停止セルモ大尉ハ之ニ向テ突貫シ再ビ之ヲ擊退シ尙ホ勇敢ノ行爲ヲ以テ其追擊ニ偉勳ヲ立テタリ。

問題

三三村落ノ攻撃戰ニ於テ攻者彼方ノ村端ニ達シタル時、輕舉ノ前進ヲ戒メタル原則アリ而シテ此原則ハ大尉ホッフマンノ爲メニ必要ナリシヤ否ヤ其理由ト共ニ之ヲ答ヘヨ。

第九例　敵砲利用ノ過誤

予ハ此ニ戰術研究ノ目的以外ニ一戰話ヲ記述シ以テ有爲ニシテ卓識ナル同僚ノ注意ニ資セントス

ヴェルダン Verdun ノ砲撃ニ於テ獨國要塞砲兵ノ未ダ知ラザル佛軍ノ分捕砲ヲ利用セル事ヨリ一ノ不幸コソ起レリ此ニ由テ最初發セシ榴彈ハ射程甚ダ短近ニシテ我前哨ニ落下シ歩兵第六十五聯隊銃兵大隊ノ兵卒十七名ヲ傷ケ第二彈ハ大尉フォン、マレースノ右脚及中尉ブァイツフェルノ左脚ヲ奪ヘリ。

此ニ關聯シ吾人ハ明治二十七八年役ニ於ケル金州城

ニ對スル敵襲ニ於テ分捕砲ヲ巧ニ使用シ偉功ヲ奏シタル名譽ナル某工兵大尉アリシ事及威海衛攻擊ニ於テ分捕砲利用ノ方法ヲ誤リ閉鎖器脫出ノ爲ニ死亡セシ數名ノ勇敢ナル兵卒アリシヿヲ想起セズンハアラズ吾人ハ不日編纂ノ完了セラルベキ名譽ノ戰史ニ於テ美麗ナル多クノ敎訓ヲ得ベキヿヲ俟ツ者ナリ。

敵ノ殘セシ跟跡ニ由テ敵ノ兵ノ種類ヲ判斷センガ爲メ敵軍砲車ノ轍間距離及靴履等ヲ知ルハ斥候勤務ニ必要ナルガ如ク功名心ニ深キ吾人ハ他日ノ敵ニ關シ其裝具、性質、武器、慣用ノ戰術等夫ニ研究スル所ナカル

ベカラズ。

第十例　兵力不足ノ害

千八百七十年十二月十三日Seine(セイヌ)河左岸Serquigny(セルクイグニー)ノ西方ニ於テ鐵道ヲ破壞スベキ必要ヲ生シ一少尉ノ指揮スル工兵ノ一部隊及歩兵第三聯隊第十中隊ノ一小隊ヲ以テ此作業ニ任ズ此破壞工事ハ完全ニ達成セラレタリト雖ドモ佛ノ護國團二中隊及民兵ハ此普軍ノ小部隊ヲ攻擊シ之ヲ擊退シ而シテ之ニ將校一及ビ失踪者十三名ヲ合シテ兵卒十九名ノ損害ヲ與ヘタリ。

問題

三四　此ノ如キ損害ヲ蒙リタルハ掩護隊ノ兵力不足ニ

原因スルニアラザルカ。

三五　若シ此種ノ攻擊ヲ受クルコト稍信ズベキ時ハ幾何ノ兵力ヲ以テ掩護隊ヲ編成スベキヤ。

三六　小部隊ノ血ヲ流サヾレバ得ル能ハザル結果モ大部隊ハ戰ハズシテ之ヲ獲得スルヲ得ル「古來其例多シ戰例ヲ擧ゲテ證明セヨ。

三七　此ノ如キ小戰鬪ノ結果、彼我志氣上ニ及ボス影響ハ果ノ顧慮スルニ足ラザルモノナルカ殊ニ夜間ニ於テハ如何若シ大ナル影響アリトセバ各級ノ指揮官ハ其兵力ヲ部署スルニ當リ如何ナル注意ヲ要スルヤ。

明治三十四年八月廿八日印刷
同　八月廿八日發行

著作權所有

發行兼編輯人　東京市赤坂區表町二丁目一番地　伊藤芳松
印刷人　東京市京橋區西紺屋町廿六番地　青木弘
印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六番地　株式會社秀英舍

發行所　東京市赤坂區表町二丁目一番地　兵事雜誌社

參謀本部次長陸軍中將寺內正毅閣下題字
參謀本部部員兼陸軍大學校兵學教官 陸軍歩兵少佐竹島音次郎殿校正
參謀本部出仕陸軍歩兵大尉佐藤安之助殿譯

最新 獨逸野外要務令

躰裁四六判上等舶來洋紙
本クロース背皮金文字入
定價 金七拾錢
郵稅 金八錢

本書は本邦野外要務令改正後發布に係る獨逸帝國現行の野外要務令を飜譯せる者也。帝國の野外要務令は基準を獨逸に採りて制定せしものなり從て本書の如き最新の原書を飜譯せしものは帝國の要務令と共に研究上最も必要なり縱令、原書を解するものと雖も兵書飜譯の模範となり亦原書と譯本とを對讀するときは學習上の良師たるを得べし故に本書は啻に兵家の寶典たるのみならず語學の良師として軍國の爲め至大の貢獻をなすものといふべし

本書に英獨佛の語學に長し且つ文學の才美に富める佐藤大尉の成稿に屬し加ふるに竹島少佐が原書に對照し一字一句、半點片圈の微に至るまで其の英氣煥發、見地卓勵の眼界に收め嚴正綿密の檢閲を與へられ爲めに版を改むること數回特に附圖の如きは形容彩色、工夫幾番、具に苦心を重ね以て文明列强に對し遜色なからんことを勉めたるものなり。

本書の由來已に此の如し世の淸新の知識を養ひ苟くも時代の進歩に先んぜんと欲する者は須らく一本を備ふべし時は人を待たず今や一日も躊躇するを許さゞるなり。

發行所 東京市赤坂區表町二丁目一番地 兵事雜誌社

A B 氏 著

基本戰術研究錄 附圖 全

躰裁四六判上等舶來洋紙表裝本社の新工風になる上等裂地表紙
定價 金二十五錢
郵稅 金四錢

本書は各兵操典及野外要務令の原則と戰術の原理に基き基本戰術の學理の應用とを說述せしものなり。其と體裁は支隊の戰況を書き問題を設け答解を與へ問答を加へ說明を附し論證を立、叙事明晰、論說正確、讀んで飽くを知らず時の移

るを覺えず殆んど勞せずして戰術の堂に上るを得せしめ特に兵器の進歩を顧みて最近の戰術に論及し別に當今兵家の研究すべき夜戰の一篇を添へしは所謂『錦上の花』といふべし。

故に一たび本書を繙くときは居ながらにして學識豐富、才幹卓越、指導親切なる兵家の鞭下に在つて明快なる指導に接するを得るや必せり。

著者は公に署するを許さゞるも其の伎倆、位地及出身に關しては本書の價値と共に窃に畏敬尊信して本社の光榮とする所なり。

本社は有益なる本書を刊行せしは兵學の進歩を世界に表白する一端にして軍國の光華たるに耻ぢざるを喜び併て本社多年の唱道に背かざる忠實の擧たるを信して疑はず。若夫戰術上、明確なる根底を培養し清新なる知識を吸收せんと欲する者は速に一本を座右に備へよ。

◉發行所　東京市赤阪區表町二丁目一番地　兵事雜誌社

兵事雜誌社出版書目

『兵事雜誌』毎月二回八日、廿三日定期發行定價一冊　郵税共金七錢

『軍人普通學講義錄』毎月一回發行規則書は郵税二錢御送附あらば送呈す

下士の職責　定價金十五錢　郵税金二錢

第十版 在郷下士卒心得　定價三錢五厘　郵税金一錢

第三版 在郷下士卒教科書　定價金五錢　郵税金二錢

第三版 在郷將校心得　定價金五錢　郵税金二錢

漕艇案内　定價郵税共金十七錢

軍隊生活　定價金十三錢　郵税壹錢五厘

海軍生活　定價金十五錢　郵税金二錢

戰爭と外交　定價金二十錢　郵税金二錢

兵營日記 牛の巻 鼠の巻　各一冊金五錢　郵税一錢五厘

戰後の日本將校　定價金十五錢　郵税金二錢

軍人格言例證　定價金十二錢　郵税金二錢

帝國々難の夢 上中下　各一冊二十錢　郵税金二錢

教育指針　定價金三十錢　郵税金四錢

軍事小說 東洋の大波瀾　定價金二十錢　郵税金三錢

第二版 戰術研究　定價金二十錢　郵税金四錢

各個散兵教練　定價金八錢　郵税金二錢

内外百傑士　定價金十五錢　郵稅一錢五厘

朝鮮半島の天然と人　定價金廿四錢　郵稅金二錢

清國動亂史　前編　定價金十三錢　郵稅金二錢

清韓兩國地圖　定價金四十錢　郵稅金二錢五厘

假備築城　定價一圓五十錢　郵稅金十二錢

國漢文教程　上下　定價金卅四錢　定價金三十錢　郵稅各金八錢

日本歷史教程　定價金十錢　郵稅金四錢

地理學教程　定價金十四錢　郵稅金四錢

千九百年改正　獨逸野外要務令譯書

武士道　定價金七十錢　郵稅金八錢

陸軍志願者必携　定價金二十錢　郵稅金四錢

軍人懷中日記　定價金十五錢　郵稅金四錢

徵兵適齡者必携　定價金七錢　郵稅金二錢

歩兵野外演習教育　定價金三十錢　郵稅金四錢

看護卒教科書　定價金十五錢　郵稅金二錢

給養輯錄　定價金六十錢　郵稅金六錢

新諸條例　定價金卅五錢　郵稅金四錢

兵棋對策　定價五十六錢　郵稅金六錢

經理要領　定價金六十錢　郵稅金四錢

艦船旗表　定價金廿一錢　郵稅金二錢

擔架術教科書　定價金十錢　郵稅金二錢

海權論　定價金壹圓　郵稅金八錢

列次名簿　定價金卅五錢　郵稅金六錢

服制圖解　定價金四十錢　郵稅金四錢

電信符號　定價金八錢　郵稅金二錢

基本戰術適用解義　全六冊　各一冊金五十錢　郵稅金六錢

小部隊之指揮　正價金二十錢　郵稅金四錢

兵要地圖學　正價金十錢　郵稅金二錢

兵卒教科書　正價金十三錢　郵稅金四錢

兵卒學科問答　正價金十錢　郵稅金二錢

野戰砲兵操典草案　正價金十錢　郵稅金二錢

要塞砲兵操典草案　正價金十四錢　郵稅金二錢

野戰砲兵射擊教範草案　正價金八錢　郵稅金二錢

要塞砲兵射擊教範草案　正價金廿五錢　郵稅金二錢

仝工作教範　正價金十一錢　郵稅金二錢

野戰砲兵工作教範　正價金六錢　郵稅金二錢

工兵操典第一編　正價金五十八錢　郵稅金八錢

仝　第二編　正價金廿八錢　郵稅金六錢

仝　第三編　正價金廿五錢　郵稅金四錢

仝　第四編　正價金二十錢　郵稅金四錢

全　第七編　（正價金三十錢　郵稅金六錢）

輜軍兵操典　（正價金五錢　郵稅金二錢）

陸軍服役條例　（正價金四錢　郵稅金二錢）

陸軍召集條例　（正價金六錢　郵稅金二錢）

全補充條例　（正價金四錢　郵稅金二錢）

五萬分一東京近傍圖　（一枚正價十錢　郵稅金二錢）

勅諭及讀法義解　（正價金四錢　郵稅金二錢）

野外要務令　（正價金十錢　郵稅金四錢）

歩兵射擊教範草案　（正價金十錢　郵稅金二錢）

軍隊内務書　（正價金十三錢　郵稅金二錢）

歩兵操典　（正價金七錢　郵稅金二錢）

衞戍服務規則　（正價二錢五厘　郵稅金二錢）

陸軍刑法　（正價金五錢　郵稅金二錢）

陸軍懲罰令　（正價金二錢　郵稅金二錢）

陸軍禮式　（正價金三錢　郵稅金二錢）

全　附錄　（正價金十錢　郵稅金二錢）

馬學教程　（正價金十六錢　郵稅金四錢）

躰操教範　（正價金十錢　郵稅金二錢）

全　附錄　（正價金五錢　郵稅金二錢）

劍術教範　（正價金七錢　郵稅金二錢）

歩兵工作教範草案　（正價金六錢　郵稅金二錢）

騎兵操典　（正價金八錢　郵稅金二錢）

馬術教範第一部　（正價金七錢　郵稅金二錢）

全　第二部　（正價金十二錢　郵稅金二錢）

騎兵射擊教範　（正價金九錢　郵稅金二錢）

方眼紙（百枚に付）　正價金八十錢

報告紙（同）　正價金廿五錢

同封筒（同）　正價金廿五錢

射擊手簿（歩兵科）　正價金二錢

右之外本社は愛顧諸彦の便宜をはかり兵書に限り内外國何れの發行を不論篤實を旨とし廉價を以て迅速御需に應ずべく候に付多少に不拘御用向仰付被下度候也

29
281

東京市赤阪區表町二丁目一番地
書出版販賣所　兵事雜誌社